

自然観察 NOW

NO : 59

野幌森林公園自然情報

発行 : 2021年10月2日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



春、野幌の森にたくさんの夏鳥の声が響き、猛暑だった夏に子育てに忙しかった鳥たち。やがて森に秋の花々が咲き出して来て、今は秋の気配を感じます。そろそろ冬鳥や、山地で生活していた野鳥たちも姿を見せる季節になりました。涼やかな森に、秋の花々や野鳥の姿を見に出掛けたいかがでしょう。

野幌の秋の森に、一番にやって来る”秋の使者の野鳥たち”を紹介します。

○ ミヤマカケス (亜種) (深山懸巢) スズメ目 カラス科

夏には山地にいてあまり見かけないが、秋になると平地にも現れて、公園や庭先の餌台などでもよく見かける。ものまねに長けて、クマゲラやトビ、捕食者のノスリやオオタカ、クマタカなどの鳥の声や、ネコやイヌなどの身近な動物の声色を使い、人間の言葉もまねる。私は、山の奥で赤ん坊の泣き声に驚いたら、木の上にカケスがいて鳴いていたという体験をもつ。

(分布) ミヤマカケスは北海道全域で留鳥・漂鳥。ユーラシア大陸に広く分布する。

亜種カケスは本州から九州では、留鳥・漂鳥。

ミヤマカケスは海上移動を嫌うらしく、カケスとは津軽海峡を境にしっかり分布が分かれる。いわゆる“ブラキストン線”で隔てられた鳥である。

(名前の由来) 木に枯れた枝の巢材で巢をかけるから「懸巢」という説。鳴き声からの説など。古名は「檀鳥(かしどり)」と言い、カシ(ドングリ)の実などの堅い実を好むからとも言う。

(鳴き声) 「ジェー」「ジャー」「ギャー」など。

(生態) 山地の森林に生息し繁殖する。非繁殖期は平地の森に生息する。砂浴びや蟻浴もする。

(食べ物) 雑食性で、昆虫やネズミなどの小動物、果実などを食べる。特に、秋にはドングリを好んで食べる。のどにドングリをたくさん貯えて飛ぶ習性がある。

(ドングリとの共存) ドングリを地面の葉の下に埋め込み、樹洞にも“貯食”する。冬にそれを探して食べる。記憶力は優秀で、回収率は95パーセント以上というデータもある。しかし、隠したものの一部は忘れ去られて、そこからドングリが発芽する。”森の忘れっぽい知恵者”がいて、ドングリの森は存続する。(俳句) 子供居りしばらく行けば懸巢居り 中村草田男

○ ウソ (鶯) スズメ目 アトリ科

頭が黒く、短い嘴と、雄は赤い頬が特徴の森林性の鳥。繁殖期は山地に棲むが、秋から冬には平地に降りて来て、公園などにも現れる。

(分布) 北海道全域で留鳥。本州中部から九州では、冬鳥。カムチャッカ半島、ユーラシア大陸に分布。

(別亜種) 冬には、北方から渡って来る雄の胸から腹がうっすら赤みを帯びたアカウソや、雄の胸や腹が赤みを帯びたベニバラウソも少数見られる。

(名前の由来) 「口笛を吹く」を意味する古語の「うそぶく」から来た。

(鳴き声) “さえずり”は「フィョフィョフィーフィー」など。“地鳴き”は「フィー、フィー」と鳴く。

(生態) 山地の針葉樹林で繁殖する。年間を通して“つがい”で行動する。



(食べ物) 木の実や種子を好み、昆虫やクモ類なども捕食する。春には、サクラやウメの蜜を吸い、花芽も好んで食べる。

(俳句) 声やはらぐ鶯の日あたる胸毛見て 加藤楸邨



「鳥の混群」とは？

秋になると、今まで同じ種の鳥だけでそれぞれが生活をしてきたのが、種類の違う鳥達がたくさん群れている姿を見ることが多い。繁殖期には見ない光景だけに不思議だ。それを「混群」と言う。

鳥の混群は、非繁殖期である秋から冬にかけて、主に森林や公園などで見られる。芽吹き頃の繁殖期には、成熟した雄、雌の「つがい」と、繁殖能力のない若鳥の群に別れる。これは群でいると卵や雛は敵に発見されやすいため、離れた場所で隠れて営巣した方が安全だからだ。繁殖期に無事巣立った雛は、他の家族や若鳥達と合流して同一種の群を作り、後に他種との混群の形成に加わる事もある。

① 混群に参加する鳥たち

シジュウカラ、ハシブトガラ、コガラ、ヤマガラ、ヒガラのカラ類の他、エナガ(亜種シマエナガ)、ゴジュウカラ(亜種シロハラゴジュウカラ)やコゲラなど。本州ではメジロも参加する。

② 鳥が混群を作る理由

それでは何故、種類の違う鳥達が群を作るのだろうか？

1. 混群に参加するすべての個体にとって、捕食を回避するメリットがあると言われている。複数の個体と一緒に動くことによって多くの眼を持つようになり、先に捕食者を早く見つけて逃げることができると考えられる。捕食される率を下げる事が出来る。
2. 群でいれば敵にも発見されやすくなるが、その時は共同で敵に立ち向い、追い払う事も出来る。
3. 単独もしくは同種の「つがい」が小さな群でいる時よりも警戒する負担が減って、餌を採る時間が増え、採る効率がよくなる。
4. 他の鳥の採餌場所や方法を真似して、餌を採る効率が上がるなどが考えられる。

③ 混群の鳥たちのコミュニケーションとは？ (資料) NHKTV 2021. 5. 23 「ダーウィンが来た！」

京都大学の鈴木俊貴助教(動物行動学)によると、最新の研究で、ただ鳴いているだけの混群の鳥たちが、言葉を使ってコミュニケーションをとることが分かってきた。

例えば、餌を見つけた時の「集まれ」の声は、コガラの「ディーディーディー」の声で、シジュウカラやヤマガラにも知らせ合う。シジュウカラやヤマガラの声でも、それぞれが理解し合っている。

また、「タカが来た」の警戒の声は、シジュウカラの言葉「ヒーヒーヒー」をどれかの鳥が発すると、皆警戒の声で鳴きかわし、安全な場所に避難するという。

我々人間が知らない鳥の世界のなぞが、今後もまた一つ解明されるかも知れない。

(主な参考文献) 北海道野鳥図鑑(亜璃西社)・北海道野鳥ハンディガイド(北海道新聞社) 他

★10・11月の観察会の予定

- | | | |
|------------------|-----------|--------------------|
| ☆「晩秋の森観察会四季美コース」 | 10月17日(日) | 9:30~12:30 |
| | | (集合: 自然ふれあい交流館駐車場) |
| ☆「秋のありがとう観察会」 | 11月7日(日) | 10:00~11:00 |
| | | 自然ふれあい交流館集合 |

文責: 道場 優(どうじょう まさる)